

(9) 総合医療福祉施設旭川荘における利用者の高齢化の現状と課題

～高齢知的障害者の望ましい施設サービスのあり方を踏まえて～

旭川荘みどりワークセンター ○井上 友和

旭川荘総合研究所医療福祉研究センター 松本 好生

【要旨】

〔要旨〕

障害者自立支援法や介護保険法等の実施により、福祉サービスを利用する障害者の住いのあり方も多様化するとともに、制度の狭間に陥るような課題も散見される。また、入所施設利用者の高齢化の問題や、地域移行した利用者が機能低下等により生活が困難になってくる問題にも直面しつつある。

障害者総合支援法という新たな制度が施行され約2年半が経過する今、社会福祉法人旭川荘の福祉サービスを利用する知的障害者の高齢化における現状と課題について報告する。

〔方法〕

旭川荘において知的障害者への支援を対象とした入所施設、通所施設、地域生活ホームの年齢割合を調査した。また、高齢化・老化した利用者を支援する上での現状と課題についてアンケートを実施するとともに、意見交換会を開催した。

〔結果および考察〕

年齢割合から高齢化率（全体における65歳以上の

割合）を計上すると、入所施設で7%、通所施設で5%、地域生活ホームで13%という結果であった。

各施設から出た高齢化に関する課題では以下のものが挙げられた。①高齢化による医療・介護ニーズの高まり、②地域生活の継続のためのサービスや機能、③65歳以上の知的障害者の福祉サービス利用の問題である。

アンケート及び意見交換会で出た課題から、以下の人に対する支援について、検討が必要と考えられる。①入所施設で暮らす医療・介護ニーズの高い人、②地域生活の維持に課題のある人、③地域で暮らす介護度が低い65歳以上の高齢障害者である。

今後は、障害者支援に加え介護のできる人材の育成、専門職の配置による支援体制の向上が求められる。また、地域生活を継続するための機能の整備、地域生活から入所施設への再入所の必要性の検討、介護保険への移行で生じる費用負担への対応や、障害者に特化した介護保険事業の展開などが必要と考える。